

「ICT 教育プラットフォーム」構築の重要性について

三友 仁志（早稲田大学）

ドリームスクール実践モデル案の募集にあたり、いただいた資料上段にある「プラットフォーム」構築の重要性について強調しておきたい。プラットフォームはクラウドを活用する上で必須であり、同時に ICT 教育の理念が形になったものといえる。プラットフォームは単に ICT 基盤といったものではなく、ICT 教育ビジョン・理念（→これも構築する必要がある）に基づき、ICT を教育に活用する際のソフトおよびハードの活用について、基本的かつ総合的な枠組を具体的に提示するものといえる。

プラットフォームを構築せずに実証を進めると、実証校それぞれの工夫によってプロジェクトが進められることになるが、その結果、それぞれが異なった発展を遂げることになり、将来の共通化／連携をとることが難しくなる。そのために、実証校同士のネットワーク化が進まず、交流が進展しないといった問題も生じるおそれがある。ICT の活用は教育を画一化するものではないが、すくなくともビジョンや理念を共有し、それを実現するために ICT ツールを実現するための具体的な枠組と指針、およびそれらに基づく共通の理解と実践が必要ではないか。

もちろん、教育の ICT 化は未だ手探り状況であり、様々な実証実験を行うことは、成功事例を探る上で必要であろう。当然ながら、実証校の実情を反映してシステム化することにより、当該実証校ではより効率的な教育を行うことが可能となろう。しかし、後から実証校間を共通化することは困難なので、カスタマイズされたモデルを普及させ、社会実装することはきわめて難しくなってしまう。

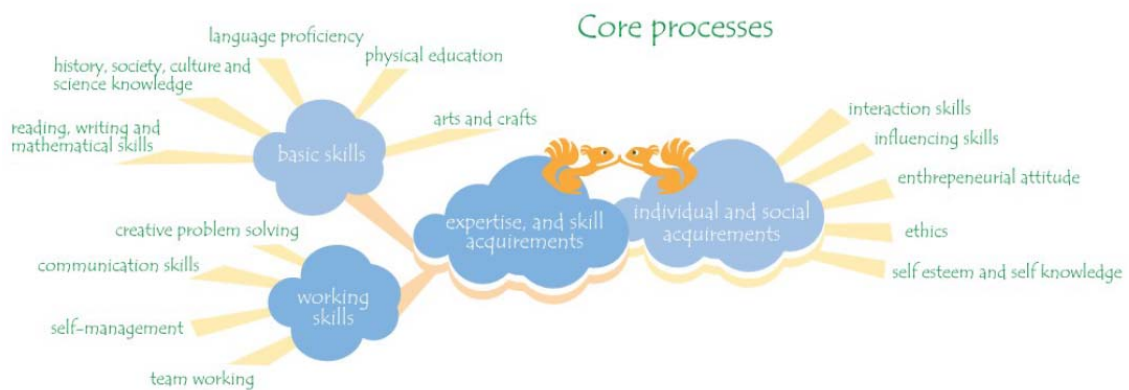
フィンランドの National Dream School Project 関連のサイトを見ると、プラットフォームの開発にかなり重点が置かれていることがわかる。Platform-as-a-service という概念が前面に押し出され、そのプラットフォームに乗って教育を行う参加校を募るという方式がとられている。より具体的には、以下の図にあるように、ビジョンとそれを実現するためのスキルが示され、共通の理解に役立っている。

わが国では、残念ながら、ICT 教育に関する共通の理念・ビジョンに基づくプラットフォームを構築する段階には至っていない。資料にある異なったタイプのモデル（モデル 1～3）は ICT 教育のプラットフォーム構築のための基礎データを収集する点で意味がある。今後は実証実験に並行して、実証につづく ICT 教育プラットフォーム構築まで

のプロセスを具体的に、できればロードマップの形で、示すことが肝要となろう。

CORE PROCESSES

- what are the skills with which the vision will be attained?



参考サイト

<http://dreamschool.eu/>

http://kasavuori.fi/images/stories/dream_school_2010.pdf

<http://dreamschool.eu/platform-as-a-service>

<http://dream.readthedocs.org/en/latest/>